

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 12 月 6 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3893600084
事業所名	グループホームゆうなぎ
(ユニット名)	南棟
記入者(管理者)	
氏名	向成 良江
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 16 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 笑顔で穏やかな暮らし！</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 その日の入浴の人達、職員で入る順番等話し合いながら、入浴してもらい、できるだけ入浴が楽しめるように本人の希望を聞きながら支援していく。→入浴者と職員で話し合い、順番等要望を聞きながら入ってもらっている。入浴中、利用者様と会話をしながら本人の希望を聞き叶えられるような支援を行っている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 山際の高台に建つ事業所は、元中学校の寮を上手に改修して活用している。建物内の段差や階段、スペースなどのハード面での課題が感じられる。少しでも課題を解決していくために、代表者や職員から募られている施設長のもと、地域との交流や外出支援などの改善に努めていたが、コロナ禍や感染対策が続き、地域住民や家族との協働や交流が難しい状況が続いている。感染対策の緩和に伴い、様々な制限も緩和され、外出支援や面会、地域との交流が再開できるようになり、利用者に喜ばれている。また、事業所の隣地に、障がい者の就労支援B型事業所があり、様々な場面で、利用者同士の交流が図られていくことも期待される。さらに、施設長の一人ひとりの利用者の自己実現を重視する熱い想いを職員は理解し、利用者本位の支援を目標に、日々のケアに取り組んでいる。</p>
--------------------------------	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	D-1、D-2シートを活用し利用者の思いを聞いている。	◎	/	◎	施設長等は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望、意向を聞き取り、アセスメントシートに記録をしている。センター方式のアセスメントシートの書式を活用して、本人の「分かること・分からないこと」「できること・できないこと」を丁寧に記録している。また、新たな思いや意向を把握した場合には、その都度アセスメントシートを記載して更新するなど、新しく入職した職員にも、利用者本人の意向が把握しやすいように工夫されている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	今までの暮らしから本人の視点で検討を行っている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人から聞き出せる方からは聞くが、話せない人からは家族等から聞きながら話し合っている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	D-1、D-2、日々の記録で把握している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	職員の思い込みの部分もあるので気をつけていきたい。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に話を聞いたり、D-1D-2シートを利用し把握できている。	/	/	○	入居前に、施設長等は利用者や家族と面談を行い、アセスメントシートを活用して、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわり、大切にしてきたことなどを聞き取りしている。また、病院の関係者からサマリーなどの情報をもらったり、以前の介護支援専門員等から、情報を得ることもある。聞き取った情報はアセスメントシートなどに記録し、職員間で情報を共有している。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	身体面では毎日のバイタル測定、精神面は日々の関わりにより把握に努めている。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	記録することにより把握に努めている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンス等で話し合い、検討している。	/	/	◎	月1回、夜勤者以外の職員が参加してカンファレンスを実施し、一人ひとりの利用者の課題のほか、より良いサービス内容などを詳細に検討している。事前に、職員は利用者や家族から意見や意向を聞いている。また、カンファレンスの内容はノートに記録して職員間で回覧するとともに、確認後に職員は押印をしている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	目標を立て実行に努めている。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向、思いを反映している。	/	/	/	カンファレンス時のほか、事前に確認した利用者や家族の意見や意向は、介護計画の第1表に転記され、目標やサービス内容などに反映されている。また、把握した情報をもとに、医師の指示やアドバイスを取り入れ、職員間で意見を出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。さらに、職員から出された意見等は、第1表の総合的な方針にも反映をしている。訪問調査日には、カンファレンス議事録と介護計画などの記録が連動していることを確認することができた。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	カンファレンス、職員会等で話し合いを行っている。	/	/	/	◎		
c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	今は重度の利用者はおられない。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍の為、外部との関わりが難しいため、協力体制が盛り込まれた内容にはできていないが、地域の行事で来てもらうことはしている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録に沿って日々の記録を行っている。			◎	介護記録には、介護計画の目標が転記され、記録する職員は計画やサービス内容などを確認しながら、計画に沿った支援内容が記載できるようになっている。中には、記載方法を理解しづらい職員もいるが、計画と介護記録が連動した内容になるように、他の職員がフォローをしている。また、日々の介護記録は、利用者ごとの担当職員が1か月分の取りまとめを行い、毎月実施するカンファレンスの中で報告し、職員間での状況確認や共有に繋げている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	個別に記録をとり、カンファレンス等で状況確認を行い、支援に繋げている。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	カンファレンスにて期間に応じ、見直しを行っている。			◎	介護計画は、3か月に1回見直しをしている。状態の変化が見られない利用者を含めて、毎月のカンファレンスの中で、介護記録を見直ししながら、一人ひとりの利用者の現状を確認するとともに、職員間で情報を共有している。また、大きな状態の変化が見られた場合には、随時計画の見直しを行い、新たな介護計画を作成している。訪問調査日には、心疾患で歩行が困難になった利用者には、計画の見直しを行った記録を確認することができた。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カンファレンス時、話し合っている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	現状に即して見直しを行い、新たな計画作成を行っている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	その都度開催できている。			◎	月1回、両ユニット合同の職員会を実施し、全ての利用者の現状を確認するとともに、職員が有給休暇等の不在の場合にも、他のユニットの職員が対応できるように情報共有をしている。また、ユニットごとに、月1回のカンファレンスと、日々の申し送りを実施している。会議には、夜勤者以外の多くの職員が参加できるように、事前に日程を調整している。さらに、会議の終了後には議事録を作成し、全ての職員に議事録を確認してもらうとともに、会議に参加できなかった職員に、重要事項は口頭で伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	いつも同じ人の意見が出ていることが多い。			◎	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	ほぼ全員参加あり、参加できない方には後日記録を読んでもらっている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	毎日送りをし、大切なことは記録をして全員に伝わる態勢はできている。	○		◎	業務日誌を活用して、日々の朝夕の申し送りを実施している。往診時の利用者の様子等で、特に重要事項は注意事項欄に記録することを徹底するなど、記録した職員と確認した職員の伝達や確認の漏れがないようにしている。時には、グループLINEを活用して、伝達を行う場合もある。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	完全ではないが、何をしても聞きながら対応している。				やりたいレクリエーションや飲み物、入浴の有無など、生活の様々な場面で、職員は声をかけて、利用者に自己決定や選択してもらえようように心がけた支援に努めている。自分で選んだ着替えや食器洗いなどのできることは自分でももらい、職員は安易に手助けをすることなく、見守りや待つ介護を実践している。また、利用者が楽しめるように職員は注意を払いながら声かけを行うとともに、不適切な言動が行われないように、職員同士で注意し合うことができています。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	おやつや飲み物など自分で選んでもらい、待つことも行い、自分で決められるような声掛けを行っている。			○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のベースに合わせて支援を行っているが、生活全般では職員のベースもあるが、入浴など順番は毎日聞きながら自分たちで決めてもらっている。				
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気作りをしている。	○	言葉を選んだり雰囲気作りには気をつけている。			○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情を見て思いをキャッチできるよう努力している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	研修等で人権尊厳について学び意識して行動している。	○	○	○	定期的に勉強会を実施し、職員は人権や尊厳などを学び、理解をしている。また、外部研修に参加した職員は、勉強会記録を作成するとともに、内容を職員間で確認し合うことで、ケア方法などの意識づけをしている。さらに、職員は居室を利用者のプライバシーのある場所と認識し、居室の入室時に、声かけやノックをしてから入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレカーテンを開ける、プライバシーに配慮し介助を行っている。				
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室の出入りはノックを行い、声を掛けて行っている。			○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシーの保護、個人情報について理解し遵守している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんにも出来る事をしてもらったり、わからないことを教えてもらっている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性や性格を把握するとともに、集団生活の中で、気の合う人や合わない人がいるのを、必然なことと認識している。一人ひとりの利用者の気持ちに寄り添いながら、職員は目配りをするとともに、利用者の中に入って仲介をするなど、円滑な集団生活が送れるような支援に努めている。時には、配席を変えるなどの対応をすることもある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解できている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し、席替えをするなど、トラブルにならないように気をつけている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの解消に努め、不安などの対応をしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	家族や本人から話を聞くが、完全には把握できていないかもしれない。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナの為、面会制限はあるが、会われている。外出も天気の良い日、体調の良い時ドライブに出かけている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日には外に出て日光浴等している。ドライブ、イベントに参加されている人もいる。	○	△	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出できる機会は減少をしている。感染状況に注意を払いながら、天気の良い日には、外気浴を兼ねて事業所周辺を散歩したり、季節の花を見に少人数でドライブに出かけたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。中には、病院受診の際に、家族と買い物などに出かける利用者もいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	ボランティアの方から連絡があったため願っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症に関する研修や本を読んで、正しく理解し、ケアを行っている。	/	/	/	職員は、待つ姿勢を意識し、利用者自身にできることはしてもらうことを大切に考え、時間がかかってもしてもらうとともに、長く継続できるような支援に努めている。また、施設長は、業務の効率化を図るために、職員が手や口を出して手伝い、利用者ができることを奪わないように、日頃から声をかけるなどの注意喚起をしている。また、「できること・できないこと」シートを活用して、職員は一人ひとりの利用者のできることを把握している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	今の状態を長く続けていけるように支援を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	なるべく職員は待ちの姿勢を行い、必要時は支援を行っている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	今までの生活状況等、家族から聞き出したり、関わることで見つけている。	/	/	/	事業所では、利用者一人ひとりに合わせて、得意なことやできる役割、出番づくりに努めている。洗濯物干しやたたみ、ゴミ出し、花の水やり、食材切り、配膳、お盆拭き、テーブル拭き、掃除機かけなど、日常生活のあらゆる場面で、職員は利用者に声をかけ、役割や出番を担ってもらえるような配慮した支援が行われている。中には、日めくりカレンダーをめくったり、花の水やりをしたりすることを日課にしている利用者もいる。また、利用者の誕生日には、自己紹介をしてもらうなどの出番づくりも行われている。さらに、職員が季節に応じた話題提供をするなど、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人一人に合った役割を見つけて出番をつくっている。	○	△	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個性、自己表現について把握できている。				起床時に、職員は声をかけ、利用者に服を選んで着替えてもらえるように、見守りや待つ介護を心がけた支援をしている。また、整容の乱れや服の汚れが見られた場合には、さりげなく声をかけてサポートをしたり、居室に移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。中には、認知症状が進行している利用者もあり、職員はジェスチャーなどを交えて、居室に呼んで分かりやすくコミュニケーションを図るなどの対応をすることも。さらに、身体的に重度な利用者にも、毎日着替えてもらい、可能な限り共用スペースで過ごしてもらえるような時間を設けるなど、メリハリのある生活が送れるよう支援している。加えて、利用者の心身状況に関わらず、好きな服を自分で選んでもらうなど、意識した支援も行われている。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ご自分の好きなようにされている方もおられる。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に考えたりアドバイスをして、本人の好きなようにできるよう支援を行っている。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	その人らしさを大切に支援を行っている。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	大きな声で伝えず、さりげなくカバすることを心がけて行っている。	◎	○	○		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	望まれる方はお店に出かけられている方もいたが、現在の人は望まれる方はいない。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさを大切に支援を行っている。			○		
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の大切さを理解している。				以前は、利用者と一緒に食材の買い出しに行くことができていたが、感染対策もあり、現在は職員のみで買い物に行くようになっている。利用者の好みのメニューを聞きながら、献立作成や食材選びを行い、各ユニットで職員が調理をしている。訪問調査日には、食器洗いを中心に、後片付けを手伝う利用者の様子を見ることができた。また、敷地内には畑があり、旬の野菜を収穫し、メニューの中に取り入れることもある。食器類は、基本的に使い慣れた物を持ち込むことができるが、食欲旺盛な利用者には大きな茶碗を持ち込まれると、食事の見た目が物足りない場合もあるため、事業所で用意した使いやすい物を使用することが多い。食事の際に、職員は利用者と同じ距離を置くものの、同じ空間で一緒に食べるようにしている。さらに、食堂内にキッチンがあるため、重度の利用者にも匂いや音を感じ、食事を楽しまれるようになっている。加えて、法人内にいる栄養士から、必要に応じて助言をもらうとともに、職員間で話し合い、食べやすい食の形態のほか、栄養バランスなどの検討をしている。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	何か食べたいものはないか聞いたり、片付け料理準備など一緒に行っている。			◎		
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者の出来る事を一緒に行って力を発揮し、自信、達成感に繋げている。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時にご家族から聞いたり、日々の利用者との会話の中から把握できている。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者の食べたいものを聞いたり、季節の野菜、行事食を取り入れている。			○		
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者さんに合った食事形態にて食べてもらい、健康状態にも考慮している。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入居時に持って来られ使われている。			◎		
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	今は一緒に食べることはできないが、一人一人の様子を見守り、サポートをさりげなく行っている。			○		
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	全員が食堂内で過ごされることが多く、食事までの雰囲気、調理時の匂いは伝わっている。	◎		◎		
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者に応じた食量、栄養バランス、水分摂取の確保を行っている。					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	低栄養、脱水にならないように食事形態、飲み物の工夫を行っている。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員が献立を作成しており、偏りのないように相談しながら配慮している。			◎		
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手指消毒など衛生管理には十分に注意し、食中毒予防に努めている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修等で学び、口腔ケアの必要性、重要性を理解し口腔ケアを行っている。	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、可能な利用者には自身で歯磨きなどの口腔ケアを実施してもらうとともに、必要に応じて、見守りや磨き残しなどのサポートをしている。食堂内にある共用の洗面台で口腔ケアをしてもらい、職員は、全ての利用者の口腔内の確認を行い、磨き残しや異常がないか丁寧に観察し、介護記録に記載をしている。また、異常が見られた場合には、早期の歯科診療に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	調子が悪かったり、痛みがあるときは歯科医に受診するなど健康状況の把握はできている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医による研修を以前は受けていたため、日常生活に活かしている。口の中確認するようにしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	できない方等、一人一人に声掛けを行い支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	できるだけ自分で口腔ケアを行ってもらい、できないところを介助し、汚れ、匂い、舌の汚れの清潔に日常的に支援している。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレの排泄を基本として支援している。その方に合ったオムツの使用をし、自立支援に繋げている。	/	/	/	事業所では、基本的に利用者がトイレで用を足すことができるよう支援している。また、排泄パターンを把握して、声かけやトイレ誘導をするほか、食事前後に、必ず声かけやトイレ誘導を徹底するなど、排泄の失敗がないよう支援も行われている。また、病院から事業所への入居に繋がる利用者の中には、おむつを使用したまま退院する場合も多く、状態を観察しながらハビリパンツに変更していただくほか、2人体制で、こまめなトイレ誘導や排泄介助をすることで、トイレでの排泄ができるようになった利用者もいる。さらに、利用者の排泄状況に応じて、職員間で適切な排泄用品の使用を話し合うとともに、利用者や家族に相談し、確認の上で使用している。利用者の羞恥心に考慮しながら、中には、扉を外してカーテンを使用しているトイレもある。加えて、トイレにはセンサーが設置され、夜間の利用を分かりやすいようにしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘の原因や及ぼす影響について、十分に理解して対応をしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を活用して把握できている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレでの排泄を基本として、その時々合った支援をしている。	/	◎	/	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	みんなで話し合い、検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間での声掛けや、早めの声掛け誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日中、夜間でパットの種類を変えている。ご自分の好みのパットを使用している方もいる。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の状態に合わせて下着、オムツを使い分けて支援している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳製品をとってもらったり、散歩し、運動をしたり、働きかけは行っている。水分もしっかりとってもらうことで出るようになっている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	3日に1回は入浴できるようにしている。一人一人に順番を聞いたりし、希望に添って対応している。	◎	/	○	原則として、3日に1回利用者が入浴できるよう支援している。湯の温度や入浴の順番、時間帯は、利用者と相談しながら決めるようにしているが、職員の勤務体制の関係で、時間帯を職員が決めるざるを得ない場合もある。中には、入浴を拒否する利用者もおり、時間や入浴日をずらして声をかけるなどの柔軟な対応を行い、気持ち良く入浴してもらえるよう支援している。また、失禁などの汚れがあった場合には、随時入浴支援を行うとともに、夜間帯にも、夜勤者が支援することもある。さらに、北ユニットには、重度化に対応できるように特殊浴槽が設置され、利用者の状態に応じて、安心安全に入浴できるように使い分けをしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	湯船にゆっくり長くつかられる方もおられ、一人一人にあった支援を行っている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できない事への介助を行い、安心して入浴できるように支援を行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	日をずらすなど無理強いせずに入浴してもらっている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルを入浴前に測定して、入浴後は水分補給をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	睡眠パターンの把握はできている。	/	/	/	入院時に、睡眠導入剤等を処方される場合もあるが、事業所では、退院後に、利用者に立位訓練や歩行訓練、体操などの生活リハビリを熱心に行ってもらうことで、日中の活動量を増やすなど、夜間に利用者が服薬なしでも、眠れるような支援に努めている。日中には、極力起きて利用者に過ごしてもらおうようにしている。現在は、眠剤などを服薬している利用者はほとんどいない。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の生活を見直し、夜眠れるように取り組みを行う努力をしている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	必要時には医師とも相談しながら支援を行っている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個人が必要に応じてされている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話をかけてもらいたいときは、職員が繋げてあげてお話しされている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話等必要に応じて手助けを行えるようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	できている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	自分の自室においている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	オンラインにてお話が出来るようにしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解しているが持たれている方はいない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	今はコロナで行けていないが、以前は近くのスーパーに買い物にも行っていた。パン屋さんが来た時自分で選ばれる時もある。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族と相談し、お金を必要時使えるような支援を行っている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	その都度話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	事務所でお金を管理し、出納帳のサインも月ごとにもらい、確認してもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々ニーズに応え、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。	○	/	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、感染対策の緩和に伴い、利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟に対応している。通院は、隣市を越えた医療機関まで、職員が同行支援をすることもある。また、利用者の要望に応じて、日中にドライブをして自宅近くまで外出をしたり、職員2名体制で、利用者と一緒に墓参りに出かけたりするなどの支援も行われている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	日中は玄関の施設はせず、玄関前には花があり、気軽に入れるよう配慮されているが、今はコロナ対策中。	◎	○	○	町道から少し入った場所に、元中学校の寮を改修した事業所の建物がある。玄関の入り口には、ベンチやプランターの花が置かれ、地域住民が来訪しやすい雰囲気づくりが行われている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	△	その季節に合った飾りはあるが、住まいとしての心地よさはあるかわからない。	○	○	○	以前、中学校の寮だった建物は、段差やトイレ、入浴、換気、明るさ、見守り体制などのハード面での課題が多くなっている。職員は可能な範囲で、共用空間の表示や見守りを強化するなどの工夫をしている。廊下には、利用者が作成した塗り絵や貼り絵が飾られているほか、食堂には、日めくりカレンダーや利用者の自己紹介などが貼られている。また、日中に多くの利用者は、食堂を兼ねるリビングでテレビを見たり、新聞を読んだり、好きなレクリエーションなどをして過ごすことができています。さらに、共用スペースは、整理整頓や清掃が行き届いている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	行えている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	日中過ごされているところで、食事作りを行っていることで、五感に働きかけている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合った利用者さん同士の会話ができる居場所の工夫をしている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に使い慣れたものを持ってきていただき使用している。	○		○	各ユニットで、1階に3室、2階に6室の居室の配置となっている。各居室は広く、ベットや洗面台、エアコンが備え付けられている。また、利用者は使い慣れたテレビや冷蔵庫などを持ち込むことができる。中には、仏壇を持ち込む利用者があるなど、一人ひとりの利用者の希望に合わせて、居心地の良い居室づくりが行われている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	分からない人のために、場所の案内表示をしたり、それぞれの場所にはわかりやすく表示している。				○	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	置いている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	日中玄関の施錠はせず、センサーがあり、安全確保を行っている。	◎	×	○	職員は、玄関等に鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関は施錠をしておらず、職員はセンサーチャイムで、利用者や来訪者の出入りを認識しやすくなっている。地域住民が、夕方以降に来訪することが多く、夜間帯は防犯で施錠された状態となっているため、鍵をかけないケアの取り組みの十分な理解までは行われていない。また、各ユニットともに2階建ての構造で、利用者の見守り体制を強化するため、目が届かない場所にセンサーを付けて、利用者の移動を認識しやすくしているが、閉塞感等に繋がらないようにしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所時等に話をし、理解されている。					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者一人一人の健康状態を把握している。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝バイタル測定を行い、健康状態の確認をし、記録を残している。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	週に一回ナースチェックがあり、気になる事を伝え主治医に伝えてもらっている。いつでも主治医の相談できる関係が築けている。					
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	家族の希望される医療機関の受診も行っている。	◎				
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人家族の希望に添って、適切な医療を受けられる支援ができています。					
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院時何かあった時には必ず家族に連絡を行っている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	受診時にわかる範囲で伝えるようにしている。入院しても病院と連携を取り、状態を確認している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週一回看護師チェックがあり、何か気になることがあれば相談し主治医に伝えてもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	いつでも相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	何かあればすぐに連絡ができ、早期発見・治療につながっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の目的や副作用、用法や用量について理解し記録し伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬は必ず職員が口に入れ、日付、名前を口に出し確認を行い、飲み忘れ、誤薬を防ぐ取り組みを行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	心身の安定、副作用がないかの確認を日常的に行い、服薬支援を行っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化や終末期のあり方について、入所時や状態変化時に話し合いを行い、方針の共有を行っている。				事業所には、「ゆうなぎに於ける看取り指針」があり、入居時に、家族等に対応できることなどを説明している。指針の中には、看取り時の各職種の役割を明記しているほか、かかりつけ医や訪問看護と連携が密に取れている。また、状態の変化が生じた場合には、家族や医師、看護師等を交えて話し合い、方針を共有している。直近で、事業所として、2名の看取り支援の経験をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	職員、主治医とも話し合いを行い、方針の共有をしている。	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	電話、メールに連絡したらすぐに対応できるようにしてもらっている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に十分な説明を行い、理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族、主治医との連携を図りながら、チームで支援していく体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	何かあればすぐに連絡し話をしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修等にて定期的に学んで感染予防に努めている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	×	感染症に対する予防や対応の取り決めはあるが、日頃からの訓練は充分にはできていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	最新情報を入手し、取り入れ、対応を行っている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いやうがいを徹底し、利用者、来訪者にも清潔が保持できる支援を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	毎月お便りにて様子を知らせたり、何かあればすぐに連絡をしている。				コロナ禍や感染対策が続き、家族が参加できる行事の開催は自粛状態が続いている。15分程度の事前予約制で家族との面会に対応している。感染状況により、面会制限が再度強化されることもあり、対応方法を変えざるを得ない事情も考えられるが、家族から意見が出されることもあり、コロナの5類移行などの感染対策の緩和に伴い、面会や外出の制限緩和が行われていくことも期待される。中には、病院受診の際に、家族と買い物などに出かけている利用者もいる。また、毎月、利用者ごとの担当職員が、日々の利用者の様子を記載したお便りを家族に送付するとともに、毎月ゆうなぎ通信を発行し、事業所の様子を伝えている。さらに、介護計画の変更時等にも、家族との密な連絡を取り合うようにしている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	以前は参加してもらっていたが、コロナで機会がなくなっている。病院で出かけたとき、買い物、食事される人もいる。	○		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便りにて様子を知らせたり、ゆうなぎ通信に写真を添付し、日常の様子を伝えている。	◎		○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人様がよりよく暮らせるよう関わり方についても話し合い、今後できるように支援していきたい。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	ゆうなぎ通信等やその都度報告をし、理解・協力を得ている。			○		○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	何かあればその都度家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合い、対応している。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	お便り、通信、電話連絡などにより気軽に相談できるようにしているが、面会はコロナにより窓越し、リモートとなっている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時きちんと説明を行っている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	説明をし、相談にのりながら支援をしている。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明を行い、理解を得ていると思う。		○		コロナ禍や感染対策が続き、地域住民との交流の減少が続いている。職員は、地域住民と出会った際に、あいさつや会話を交わしたり、地域の会合に参加したりする程度に留まっている。また、令和5年9月に行われた地域の敬老会には、利用者が参加することもでき、喜ばれている。施設長は、「主導として地域との交流を改善していきたい」という意向があるため、今後の交流の実践も期待される。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	行事には参加できていないが、園の周りで会った時にはあいさつ程度はしている。地域の行事来てもらえる時は来てもらい、参加している。		△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	外を歩かれている利用者があるときに、地域の人達が見守り、声掛けをしてくれている。					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	コロナ禍の為、あまりないが、面会などは来てもらったり、外で会った時は話されている。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	気軽に声掛けあったりはあるが、立ち寄ってもらうことはコロナ禍の為できていない。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナの為できていない。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	町内のスーパー利用させてもらう時には前もって連絡し、美容室、交番の方にも協力をお願いしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	会議は文面のみの報告を行っている。	○	/	△	コロナ禍や感染対策が続き、運営推進会議は書面開催が続いている。書面開催においても、会議録等を家族や参加メンバーに送付して、意見をもらうなど、出された意見をサービスの質の向上に繋げていくことも期待される。施設長は、「今後、集合形式の会議を再開したい」と考え、感染状況を確認しながら、会議が開催できることを期待したい。会議では、利用者の様子や事業所の出来事などの様々な報告が行われ、議事録を全ての家族や参加メンバーに送付をしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	コロナの為会議は開催できていないが、外部評価の結果等、郵送にて報告を行い、意見等があればその都度議事録にて公表している。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	こちらから文面を提出している。	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念に基づいた支援を日々実践し関わっている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えていく。	○	玄関先、事業所内にわかるように掲示したり、毎月の通信にも載せている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修を受けられるようにしてもらっている。	/	/	/	代表者自らが職員会に参加し、職員とのコミュニケーションを図るとともに、定期的に、職員との個別面談を行い、意見を聞いて必要な備品を購入するなど、ストレス軽減にも努めている。また、施設長は、日勤や夜勤の業務にも従事し、日頃から職員から意見を聞く機会も多く、遠慮なく意見を伝えることができていく。さらに、定期的に勉強会を実施し、職員のスキルアップにも繋げている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	ゆうなぎの目標が達成できるよう職員が働きながらスキルアップできるように個人個人と話す時間を作っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	やりがいなど各自が向上心を持ち、働けるよう職場環境整備に努めてもらっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービス協会や、地域の連絡会に参加し、他の事業所との交流にも取り組んでいる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	軽減するための工夫を少しずつですが取り組んでもらっている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	職員会や研修を通して学び、理解し、支援を行っている。発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	/	/	◎	定期的に、高齢者虐待防止の勉強会を実施したり、外部研修に参加したりするなど、職員の理解促進に努めている。訪問調査日には、委員会の議事録等で、不適切な言動などの事例をもとに、職員間で検討したことを確認することができた。また、大きな声を出すなどの不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うなどの注意喚起をしている。必要に応じて、施設長に伝え、該当職員に確認した上で、指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員会、カンファレンス等で話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	声を掛けたり、話を聞くようにして気をつけている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	具体的な行為、緊急やむを得ない場合とは何かについて正しく理解しケアの取り組みを行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	その時々話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	要望は出ていないと思うが、話し合いはその都度行うようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	研修等で学び、理解はできている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要な時には連絡を取り相談している。今後も相談や協力依頼ができるようにしていきたい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルが作成されている。普段からどのようにしたらよいかの確認をしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救命救急講習を定期的に受け実践力を身に付けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	何かあった時には、ヒヤリハットを出し、検討し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者一人一人の状態を把握し、リスクや危険について検討、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	全職員の理解はできていないかもしれないが、苦情があれば対応方法を話し合っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	ちょっとしたことでスムーズに職員に伝え改善するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対し速やかに対応し、納得を得ながら話し合いと関係づくりを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会や家族会は開かれていないが、電話で情報提供を行っている。	◎		○	日頃から、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。面会時や電話連絡時に、職員は家族に声をかけ、意見や要望を聞いている。また、施設長は、日勤や夜勤などの業務に従事し、職員との距離も近く、意見を言いやすい風通しの良い環境が整い、職員から意見を伝えもらうこともできている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を行っていない。	×	公的な窓口の情報提供を行っていない。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場にも足を運んでもらい、直接聞く機会をつくってもらっている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	いつも話を聞く姿勢であり、利用者本位の支援を考え行動している。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回取り組んでいる。				自己評価は職員間で取り組み、施設長等が取りまとめて作成をしている。また、職員会等でサービスの評価結果を職員に周知するとともに、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、運営推進会議の中で、評価結果を家族や参加メンバーに報告しているが、書面開催のため文書の送付に留まっている。今後は、集合形式の運営推進会議の中で、評価結果や目標達成計画、目標達成への取り組み状況などを報告したり、感染対策が落ち着いた際には、家族や会議の参加メンバーに目標達成の取り組み状況のモニターを呼びかけて、意見をもらったりするなどの取り組みが行われることも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告はしているが、モニターはまだできていない。	○	○	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	会議は行っていないが、取り組みの結果を確認し報告を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成している。いつでも見られるようにしている。	/	/	/	年2回、火災や昼夜などを想定した避難訓練を実施し、うち1回は、消防署職員との立ち会いのもとで訓練をしている。事業所として、隣接する就労継続支援B型事業所を一時避難場所としているが、感染対策もあり、現在は合同訓練が休止状態となっている。今後は、協力支援体制の再構築が図られるように、集合形式の運営推進会議を活用して、災害の備えを話し合ったり、事業所便り等を活用して、訓練の様子を伝えたりするなど、会議の参加メンバーから理解が得られるような取り組みが行われることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回以上訓練を行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検を行い、非常用食料、備品、物品を準備している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	コロナ禍になってからは参加はしてもらえていないが、今後も連携は図ってきたい。	○	×	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	参加できるようにしていきたい。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	取組みされていない。今後取り組めるようにしていきたい。	/	/	/	地域住民から相談が寄せられた場合には、地域包括支援センターなどの関係機関へ繋ぐ支援体制は整えているものの、感染対策が続いたこともあり、直接の相談が寄せられない状況が続いている。また、会議や研修に参加する機会は減少しているものの、他のグループホームや町行政と、連携や協力を図ることもできている。以前に、保育所等の行事に招かれ、交流を図ることができていたが、現在は相互の遠慮し合う状態が続いており、少しずつ連携の働きかけが行われていくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	何かあれば、相談支援を行えるようにしている。	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍の為、活動はできていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生、高校生、実習に来られた。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の集まりに参加はできるだけしようと、できるのは参加している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 12 月 6 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3893600084
事業所名	グループホームゆうなぎ
(ユニット名)	北棟
記入者(管理者)	
氏名	向成 良江
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 16 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 笑顔で穏やかな暮らし！</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 その日の入浴の人達、職員で入る順番等話し合いながら、入浴してもらい、できるだけ入浴が楽しめるように本人の希望を聞きながら支援していく。→入浴者と職員で話し合い、順番等要望を聞きながら入ってもらっている。入浴中、利用者様と会話をしながら本人の希望を聞き叶えられるような支援を行っている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 山際の高台に建つ事業所は、元中学校の寮を上手に改修して活用している。建物内の段差や階段、スペースなどのハード面での課題が感じられる。少しでも課題を解決していくために、代表者や職員から募られている施設長のもと、地域との交流や外出支援などの改善に努めていたが、コロナ禍や感染対策が続き、地域住民や家族との協働や交流が難しい状況が続いている。感染対策の緩和に伴い、様々な制限も緩和され、外出支援や面会、地域との交流が再開できるようになり、利用者に喜ばれている。また、事業所の隣地に、障がい者の就労支援B型事業所があり、様々な場面で、利用者同士の交流が図られていくことも期待される。さらに、施設長の一人ひとりの利用者の自己実現を重視する熱い想いを職員は理解し、利用者本位の支援を目標に、日々のケアに取り組んでいる。</p>
--------------------------------	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	D-1、D-2シートを活用し利用者の思いを聞いている。+F11:F199	◎	/	◎	施設長等は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望、意向を聞き取り、アセスメントシートに記録をしている。センター方式のアセスメントシートの書式を活用して、本人の「分かること・分からないこと」「できること・できないこと」を丁寧に記録している。また、新たな思いや意向を把握した場合には、その都度アセスメントシートの情報を追記して更新するなど、新しく入職した職員にも、利用者本人の意向が把握しやすいように工夫されている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	今までの暮らしから本人の視点で検討を行っている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人から聞き出せる方からは聞くが、話せない人からは家族等から聞きながら話し合っている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	D-1、D-2、日々の記録で把握している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	職員の思い込みの部分もあるので気をつけていきたい。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に話を聞いたり、D-1D-2シートを利用し把握できている。	/	/	○	入居前に、施設長等は利用者や家族と面談を行い、アセスメントシートを活用して、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわり、大切にしてきたことなどを聞き取りしている。また、病院の関係者からサマリーなどの情報ももらったり、以前の介護支援専門員等から、情報を得ることもある。聞き取った情報はアセスメントシートなどに記録し、職員間で情報を共有している。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	身体面では毎日のバイタル測定、精神面は日々の関わりにより把握に努めている。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	記録することにより把握に努めている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンス等で話し合い、検討している。	/	/	◎	月1回、夜勤者以外の職員が参加してカンファレンスを実施し、一人ひとりの利用者の課題のほか、より良いサービス内容などを詳細に検討している。事前に、職員は利用者や家族から意見や意向を聞いている。また、カンファレンスの内容はノートに記録して職員間で回覧するとともに、確認後に職員は押印をしている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	目標を立て実行に努めている。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向、思いを反映している。	/	/	/	カンファレンス時のほか、事前に確認した利用者や家族の意見や意向は、介護計画の第1表に転記され、目標やサービス内容などに反映されている。また、把握した情報をもとに、医師の指示やアドバイスを取り入れ、職員間で意見を出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。さらに、職員から出された意見等は、第1表の総合的な方針にも反映をしている。訪問調査日には、カンファレンス議事録と介護計画などの記録が連動していることを確認することができた。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	カンファレンス、職員会等で話し合いを行っている。	/	/	○			
c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	今は重度の利用者はおられない。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍の為、外部との関わりが難しいため、協力体制が盛り込まれた内容にはできていないが、地域の行事で来てもらうことはしている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録に沿って日々の記録を行っている。			◎	介護記録には、介護計画の目標が転記され、記録する職員は計画やサービス内容などを確認しながら、計画に沿った支援内容が記載できるようになっている。中には、記載方法を理解しづらい職員もいるが、計画と介護記録が連動した内容になるように、他の職員がフォローをしている。また、日々の介護記録は、利用者ごとの担当職員が1か月分の取りまとめを行い、毎月実施するカンファレンスの中で報告し、職員間での状況確認や共有に繋げている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	個別に記録をとり、カンファレンス等で状況確認を行い、支援に繋げている。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	カンファレンスにて期間に応じ、見直しを行っている。			◎	介護計画は、3か月に1回見直しをしている。状態の変化が見られない利用者を含めて、毎月のカンファレンスの中で、介護記録を見直ししながら、一人ひとりの利用者の現状を確認するとともに、職員間で情報を共有している。また、大きな状態の変化が見られた場合には、随時計画の見直しを行い、新たな介護計画を作成している。訪問調査日には、心疾患で歩行が困難になった利用者には、計画の見直しを行った記録を確認することができた。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カンファレンス時、話し合っている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	現状に即して見直しを行い、新たな計画作成を行っている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	その都度開催できている。			◎	月1回、両ユニット合同の職員会を実施し、全ての利用者の現状を確認するとともに、職員が有給休暇等の不在の場合にも、他のユニットの職員が対応できるように情報共有をしている。また、ユニットごとに、月1回のカンファレンスと、日々の申し送りを実施している。会議には、夜勤者以外の多くの職員が参加できるように、事前に日程を調整している。さらに、会議の終了後には議事録を作成し、全ての職員に議事録を確認してもらうとともに、会議に参加できなかった職員に、重要事項は口頭で伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	いつも同じ人の意見が出ていることが多い。			◎	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	ほぼ全員参加あり、参加できない方には後日記録を読んでもらっている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	毎日送りをし、大切なことは記録をして全員に伝わる態勢はできている。	○		◎	業務日誌を活用して、日々の朝夕の申し送りを実施している。往診時の利用者の様子等で、特に重要事項は注意事項欄に記録することを徹底するなど、記録した職員と確認した職員の伝達や確認の漏れがないようにしている。時には、グループLINEを活用して、伝達を行う場合もある。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	完全ではないが、何をしても聞かながら対応している。				やりたいレクリエーションや飲み物、入浴の有無など、生活の様々な場面で、職員は声をかけて、利用者に自己決定や選択してもらえようように心がけた支援に努めている。自分で選んだ着替えや食器洗いなどのできることは自分でしてもらい、職員は安易に手助けをすることなく、見守りや待つ介護を実践している。また、利用者が楽しめるように職員は注意を払いながら声かけを行うとともに、不適切な言動が行われないように、職員同士で注意し合うことができています。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	おやつや飲み物など自分で選んでもらい、待つことも行い、自分で決められるような声掛けを行っている。			○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のペースに合わせて支援を行っているが、生活全般では職員のペースもあるが、入浴など順番は毎日聞きながら自分たちで決めてもらっている。				
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気作りをしている。	○	言葉を選んだり雰囲気作りに気をつけている。				
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情を見て思いをキャッチできるよう努力している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、自立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	研修等で人権尊厳について学び意識して行動している。	○	○	○	定期的に勉強会を実施し、職員は人権や尊厳などを学び、理解をしている。また、外部研修に参加した職員は、勉強会記録を作成するとともに、内容を職員間で確認し合うことで、ケア方法などの意識づけをしている。さらに、職員は居室を利用者のプライバシーのある場所と認識し、居室の入室時に、声かけやノックをしてから入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレカーテンを開ける、プライバシーに配慮し介助を行っている。				
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室の出入りはノックを行い、声を掛けて行っている。			○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシーの保護、個人情報について理解し遵守している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんにも出来る事をしてもらったり、わからないことを教えてもらっている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性や性格を把握するとともに、集団生活の中で、気の合う人や合わない人がいるのを、必然なことと認識している。一人ひとりの利用者の気持ちに寄り添いながら、職員は目配りをするとともに、利用者の中に入って仲介をするなど、円滑な集団生活が送れるような支援に努めている。時には、配席を変えるなどの対応をすることもある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解できている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し、席替えをするなど、トラブルにならないように気をつけている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの解消に努め、不安などの対応をしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	家族や本人から話を聞くが、完全には把握できていないかもしれない。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナの為、面会制限はあるが、会われている。外出も天気の良い日、体調の良い時ドライブに出かけている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日には外に出て日光浴等している。ドライブ、イベントに参加されている人もいる。	○	△	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出できる機会は減少をしている。感染状況に注意を払いながら、天気の良い日には、外気浴を兼ねて事業所周辺を散歩したり、季節の花を見に少人数でドライブに出かけたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。中には、病院受診の際に、家族と買い物などに出かける利用者もいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	ボランティアの方から連絡があったため願っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症に関する研修や本を読んで、正しく理解し、ケアを行っている。	/	/	/	職員は、待つ姿勢を意識し、利用者自身にできることはしてもらうことを大切に考え、時間がかかってもしてもらうとともに、長く継続できるような支援に努めている。また、施設長は、業務の効率化を図るために、職員が手や口を出して手伝い、利用者ができることを奪わないように、日頃から声をかけるなどの注意喚起をしている。また、「できること・できないこと」シートを活用して、職員は一人ひとりの利用者のできることを把握している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	今の状態を長く続けていけるように支援を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	なるべく職員は待ちの姿勢を行い、必要時は支援を行っている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	今までの生活状況等、家族から聞き出したり、関わることで見つけている。	/	/	/	事業所では、利用者一人ひとりに合わせて、得意なことやできる役割、出番づくりに努めている。洗濯物干しやたたみ、ゴミ出し、花の水やり、食材切り、配膳、お盆拭き、テーブル拭き、掃除機かけなど、日常生活のあらゆる場面で、職員は利用者に声をかけ、役割や出番を担ってもらえるような配慮した支援が行われている。中には、日めくりカレンダーをめくったり、花の水やりをしたりすることを日課にしている利用者もいる。また、利用者の誕生日には、自己紹介をしてもらうなどの出番づくりも行われている。さらに、職員が季節に応じた話題提供をするなど、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人一人に合った役割を見つけて出番をつくっている。	○	△	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個性、自己表現について把握できている。				起床時に、職員は声をかけ、利用者に服を選んで着替えてもらえるように、見守りや待つ介護を心がけた支援をしている。また、整容の乱れや服の汚れが見られた場合には、さりげなく声をかけてサポートをしたり、居室に移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。中には、認知症状が進行している利用者もあり、職員はジェスチャーなどを交えて、居室に呼んで分かりやすくコミュニケーションを図るなどの対応をすることもある。さらに、身体的に重度な利用者にも、毎日着替えてもらい、可能な限り共用スペースで過ごしてもらえるような時間を設けるなど、メリハリのある生活が送れるよう支援している。加えて、利用者の心身状況に関わらず、好きな服を自分で選んでもらうなど、意識した支援も行われている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	ご自分の好きなようにされている方もおられる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に考えたりアドバイスをして、本人の好きなようにできるよう支援を行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	その人らしさを大切に支援を行っている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	大きな声で伝えず、さりげなくカバーすることを心がけて行っている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	望まれる方はお店に出かけられている方もいたが、現在の人は望まれる方はいない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさを大切に支援を行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の大切さを理解している。				以前は、利用者と一緒に食材の買い出しに行くことができていたが、感染対策もあり、現在は職員のみで買い物に行くようになっている。利用者の好みのメニューを聞きながら、献立作成や食材選びを行い、各ユニットで職員が調理をしている。訪問調査日には、食器洗いを中心に、後片付けを手伝う利用者の様子を見ることができた。また、敷地内には畑があり、旬の野菜を収穫し、メニューの中に取り入れることもある。食器類は、基本的に使い慣れた物を持ち込むことができるが、食欲旺盛な利用者には大きな茶碗を持ち込まれると、食事の見た目が物足りない場合もあるため、事業所で用意した使いやすい物を使用することが多い。食事の際に、職員は利用者と同じ距離を置くものの、同じ空間で一緒に食べるようにしている。さらに、食堂内にキッチンがあるため、重度の利用者にも匂いや音を感じ、食事を楽しめるようになっている。加えて、法人内にいる栄養士から、必要に応じて助言をもらうとともに、職員間で話し合い、食べやすい食の形態のほか、栄養バランスなどの検討をしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	何か食べたいものはないか聞いたり、片付け料理準備など一緒に行っている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者の出来る事を一緒に行って力を発揮し、自信、達成感に繋げている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時にご家族から聞いたり、日々の利用者との会話の中から把握できている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者の食べたいものを聞いたり、季節の野菜、行事食を取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者さんに合った食事形態にて食べてもらい、健康状態にも考慮している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入居時に持って来られ使われている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	今は一緒に食べることはできないが、一人一人の様子を見守り、サポートをさりげなく行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	全員が食堂内で過ごされることが多く、食事までの雰囲気、調理時の匂いは伝わっている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者に応じた食量、栄養バランス、水分摂取の確保を行っている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	低栄養、脱水にならないように食事形態、飲み物の工夫を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員が献立を作成しており、偏りのないように相談しながら配慮している。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手指消毒など衛生管理には十分に注意し、食中毒予防に努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修等で学び、口腔ケアの必要性、重要性を理解し口腔ケアを行っている。	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、可能な利用者には自身で歯磨きなどの口腔ケアを実施してもらうとともに、必要に応じて、見守りや磨き残しなどのサポートをしている。食堂内にある共用の洗面台で口腔ケアをしてもらい、職員は、全ての利用者の口腔内の確認を行い、磨き残しや異常がないか丁寧に観察し、介護記録に記載をしている。また、異常が見られた場合には、早期の歯科診療に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	調子が悪かったり、痛みがあるときは歯科医を受診するなど健康状況の把握はできている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医による研修を以前は受けていたため、日常生活に活かしている。口の中確認するようにしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	できない方等、一人一人に声掛けを行い支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	できるだけ自分で口腔ケアを行ってもらい、できないところを介助し、汚れ、匂い、舌の汚れの清潔に日常的に支援している。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレの排泄を基本として支援している。その方に合ったオムツの使用をし、自立支援に繋げている。	/	/	/	事業所では、基本的に利用者がトイレで用を足すことができるよう支援している。また、排泄パターンを把握して、声かけやトイレ誘導をするほか、食事前後に、必ず声かけやトイレ誘導を徹底するなど、排泄の失敗がないような支援も行われている。また、病院から事業所への入居に繋がる利用者の中には、おむつを使用したままで退院する場合も多く、状態を観察しながらハビリパンツに変更していただくほか、2人体制で、こまめなトイレ誘導や排泄介助をすることで、トイレでの排泄ができるようになった利用者もいる。さらに、利用者の排泄状況に応じて、職員間で適切な排泄用品の使用を話し合うとともに、利用者や家族に相談し、確認の上で使用している。利用者の羞恥心に考慮しながら、中には、扉を外してカーテンを使用しているトイレもある。加えて、トイレにはセンサーが設置され、夜間の利用を分かりやすいようにしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘の原因や及ぼす影響について、十分に理解して対応をしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を活用して把握できている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	トイレでの排泄を基本として、その時々合った支援をしている。	/	◎	/	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	みんなで話し合い、検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間での声掛けや、早めの声掛け誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日中、夜間でパットの種類を変えている。ご自分の好みのパットを使用している方もいる。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の状態に合わせて下着、オムツを使い分けて支援している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳製品をとってもらったり、散歩し、運動をしたり、働きかけは行っている。水分もしっかりとってもらうことで出るようになっている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	3日に1回は入浴できるようにしている。一人一人に順番を聞いたりし、希望に添って対応している。	◎	/	○	原則として、3日に1回利用者が入浴できるよう支援している。湯の温度や入浴の順番、時間帯は、利用者と相談をしながら決めるようにしているが、職員の勤務体制の関係で、時間帯を職員が決めるざるを得ない場合もある。中には、入浴を拒否する利用者もおり、時間や入浴日をずらして声をかけるなどの柔軟な対応を行い、気持ち良く入浴してもらえるよう支援している。また、失禁などの汚れがあった場合には、随時入浴支援を行うとともに、夜間帯にも、夜勤者が支援することもある。さらに、北ユニットには、重度化に対応できるように特殊浴槽が設置され、利用者の状態に応じて、安心安全に入浴できるように使い分けをしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだり気分が入浴できるよう支援している。	○	湯船にゆっくり長くつかられる方もおられ、一人一人にあった支援を行っている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できない事への介助を行い、安心して入浴できるように支援を行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	日をずらすなど無理強いせずに入浴してもらっている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルを入浴前に測定して、入浴後は水分補給をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	睡眠パターンの把握はできている。	/	/	/	入院時に、睡眠導入剤等を処方される場合もあるが、事業所では、退院後に、利用者に立位訓練や歩行訓練、体操などの生活リハビリを熱心に行ってもらうことで、日中の活動量を増やすなど、夜間に利用者が服薬なしでも、眠れるような支援に努めている。日中には、極力起きて利用者に過ごしてもらおうようにしている。現在は、眠剤などを服薬している利用者はほとんどいない。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の生活を見直し、夜眠れるように取り組みを行う努力をしている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	必要時には医師とも相談しながら支援を行っている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個人が必要に応じてされている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話をかけてもらいたいときは、職員が繋げてあげてお話しされている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話等必要に応じて手助けを行えるようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	できている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	自分の自室においている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	オンラインにてお話が出来るようにしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解しているが持たれている方はいない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	今はコロナで行けていないが、以前は近くのスーパーに買い物にも行っていた。パン屋さんが来た時自分で選ばれる時もある。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族と相談し、お金を必要時使えるような支援を行っている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	その都度話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	事務所でお金を管理し、出納帳のサインも月ごとにもらい、確認してもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々ニーズに応え、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。	○	/	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、感染対策の緩和に伴い、利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟に対応している。通院は、隣市を越えた医療機関まで、職員が同行支援をすることもある。また、利用者の要望に応じて、日中にドライブをして自宅近くまで外出をしたり、職員2名体制で、利用者と一緒にお墓参りに出かけたりするなどの支援も行われている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	日中は玄関の施設はせず、玄関前には花があり、気軽に入れるよう配慮されているが、今はコロナ対策中。	◎	○	○	町道から少し入った場所に、元中学校の寮を改修した事業所の建物がある。玄関の入り口には、ベンチやプランターの花が置かれ、地域住民が来訪しやすい雰囲気づくりが行われている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	△	その季節に合った飾りはあるが、住まいとしての心地よさはあるかわからない。	○	○	○	以前、中学校の寮だった建物は、段差やトイレ、入浴、換気、明るさ、見守り体制などのハード面での課題が多くなっている。職員は可能な範囲で、共用空間の表示や見守りを強化するなどの工夫をしている。廊下には、利用者が作成した塗り絵や貼り絵が飾られているほか、食堂には、日めくりカレンダーや利用者の自己紹介などが貼られている。また、日中に多くの利用者は、食堂を兼ねるリビングでテレビを見たり、新聞を読んだり、好きなレクリエーションなどをして過ごすことができています。さらに、共用スペースは、整理整頓や清掃が行き届いている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	行えている。	○	○	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	日中過ごされているところで、食事作りを行っていることで、五感に働きかけている。	○	○	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合った利用者さん同士の会話ができる居場所の工夫をしている。	○	○	○	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に使い慣れたものを持ってきていただき使用している。	○	○	○	各ユニットで、1階に3室、2階に6室の居室の配置となっている。各居室は広く、ベッドや洗面台、エアコンが備え付けられている。また、利用者は使い慣れたテレビや冷蔵庫などを持ち込むことができる。中には、仏壇を持ち込む利用者があるなど、一人ひとりの利用者の希望に合わせて、居心地の良い居室づくりが行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	分からない人のために、場所の案内表示をしたり、それぞれの場所にはわかりやすく表示している。	○	○	○	廊下に、「〇〇さんへ。トイレは右へ行く」などの表示が行われ、個別に利用者が認識しやすいような工夫をしている。事業所として、一人ひとりの利用者の「できること・わかること」を評価し、動線に合わせた案内板を設置することで、混乱が少ないようにしている。また、衣装箱やタンスには、ラベルを貼り、中に入っている衣服などが分かりやすいようにしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	置いている。	○	○	○	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	日中玄関の施錠はせず、センサーがあり、安全確保を行っている。	◎	×	○	職員は、玄関等に鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関は施錠をしておらず、職員はセンサーチャイムで、利用者や来訪者の出入りを認識しやすくなっている。地域住民が、夕方以降に来訪することが多く、夜間帯は防犯で施錠された状態となっているため、鍵をかけないケアの取り組みの十分な理解までは行われていない。また、各ユニットともに2階建ての構造で、利用者の見守り体制を強化するため、目が届かない場所にセンサーを付けて、利用者の移動を認識しやすくしているが、閉塞感等に繋がらないようにしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所時等に話をし、理解されている。	○	○	○	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者一人一人の健康状態を把握している。	○	○	○	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝バイタル測定を行い、健康状態の確認をし、記録を残している。	○	○	○	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	週に一回ナースチェックがあり、気になる事を伝え主治医に伝えてもらっている。いつでも主治医の相談できる関係が築けている。	○	○	○	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	家族の希望される医療機関の受診も行っている。	◎	○	○	
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人家族の希望によって、適切な医療を受けられる支援ができています。	○	○	○	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院時何かあった時には必ず家族に連絡を行っている。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	受診時にわかる範囲で伝えるようにしている。入院しても病院と連携を取り、状態を確認している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週一回看護師チェックがあり、何か気になることがあれば相談し主治医に伝えてもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	いつでも相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	何かあればすぐに連絡ができ、早期発見・治療につながっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の目的や副作用、用法や用量について理解し記録し伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬は必ず職員が口に入れ、日付、名前を口に出し確認を行い、飲み忘れ、誤薬を防ぐ取り組みを行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	心身の安定、副作用がないかの確認を日常的に行い、服薬支援を行っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化や終末期のあり方について、入所時や状態変化時に話し合いを行い、方針の共有を行っている。				事業所には、「ゆうなぎに於ける看取り指針」があり、入居時に、家族等に対応できることなどを説明している。指針の中には、看取り時の各職種の役割を明記しているほか、かかりつけ医や訪問看護と連携が密に取れている。また、状態の変化が生じた場合には、家族や医師、看護師等を交えて話し合い、方針を共有している。直近で、事業所として、2名の看取り支援の経験をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	職員、主治医とも話し合いを行い、方針の共有をしている。	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	電話、メールに連絡したらすぐに対応できるようにしてもらっている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に十分な説明を行い、理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族、主治医との連携を図りながら、チームで支援していく体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	何かあればすぐに連絡し話をしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修等にて定期的に学んで感染予防に努めている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	×	感染症に対する予防や対応の取り決めはあるが、日頃からの訓練は充分にはできていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	最新情報を入手し、取り入れ、対応を行っている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いやうがいを徹底し、利用者、来訪者にも清潔が保持できる支援を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	毎月お便りにて様子を知らせたり、何かあればすぐに連絡をしている。				コロナ禍や感染対策が続き、家族が参加できる行事の開催は自粛状態が続いている。15分程度の事前予約制で家族との面会に対応している。感染状況により、面会制限が再度強化されることもあり、対応方法を変えざるを得ない事情も考えられるが、家族から意見が出されることもあり、コロナの5類移行などの感染対策の緩和に伴い、面会や外出の制限緩和が行われていくことも期待される。中には、病院受診の際に、家族と買い物などに出かけている利用者もいる。また、毎月、利用者ごとの担当職員が、日々の利用者の様子を記載したお便りを家族に送付するとともに、毎月ゆうなぎ通信を発行し、事業所の様子を伝えている。さらに、介護計画の変更時等にも、家族との密な連絡を取り合うようにしている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	以前は参加してもらっていたが、コロナで機会がなくなっている。病院で出かけたとき、買い物、食事される人もいる。	○		△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便りにて様子を知らせたり、ゆうなぎ通信に写真を添付し、日常の様子を伝えている。	◎		○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人様がよりよく暮らせるよう関わり方についても話し合い、今後できるように支援していきたい。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	ゆうなぎ通信等やその都度報告をし、理解・協力を得ている。		○	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	何かあればその都度家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合い、対応している。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	お便り、通信、電話連絡などにより気軽に相談できるようにしているが、面会はコロナにより窓越し、リモートとなっている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時きちんと説明を行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	説明をし、相談にのりながら支援をしている。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明を行い、理解を得ていると思う。		○		コロナ禍や感染対策が続き、地域住民との交流の減少が続いている。職員は、地域住民と出会った際に、あいさつや会話を交わしたり、地域の会合に参加したりする程度に留まっている。また、令和5年9月に行われた地域の敬老会には、利用者が参加することもでき、喜ばれている。施設長は、「主導として地域との交流を改善していきたい」という意向があるため、今後の交流の実践も期待される。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	行事には参加できていないが、園の周りで会った時にはあいさつ程度はしている。地域の行事来てもらえる時は来てもらい、参加している。		△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	外を歩かれている利用者があるときに、地域の人達が見守り、声掛けをしてくれている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	コロナ禍の為、あまりないが、面会などは来てもらったり、外で会った時は話されている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	気軽に声掛けあったりはあるが、立ち寄ってもらうことはコロナ禍の為できていない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナの為できていない。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	町内のスーパー利用させてもらう時には前もって連絡し、美容室、交番の方にも協力をお願いしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	会議は文面のみの報告を行っている。	○	/	△	コロナ禍や感染対策が続き、運営推進会議は書面開催が続いている。書面開催においても、会議録等を家族や参加メンバーに送付して、意見をもらうなど、出された意見をサービスの質の向上に繋げていくことも期待される。施設長は、「今後、集合形式の会議を再開したい」と考え、感染状況を確認しながら、会議が開催できることを期待したい。会議では、利用者の様子や事業所の出来事などの様々な報告が行われ、議事録を全ての家族や参加メンバーに送付をしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	コロナの為会議は開催できていないが、外部評価の結果等、郵送にて報告を行い、意見等があればその都度議事録にて公表している。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	こちらから文面を提出している。	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念に基づいた支援を日々実践し関わっている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えていく。	○	玄関先、事業所内にわかるように掲示したり、毎月の通信にも載せている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修を受けれるようにしてもらっている。	/	/	/	代表者自らが職員会に参加し、職員とのコミュニケーションを図るとともに、定期的に、職員との個別面談を行い、意見を聞いて必要な備品を購入するなど、ストレス軽減にも努めている。また、施設長は、日勤や夜勤の業務にも従事し、日頃から職員から意見を聞く機会も多く、遠慮なく意見を伝えることができている。さらに、定期的に勉強会を実施し、職員のスキルアップにも繋げている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	ゆうなぎの目標が達成できるよう職員が働きながらスキルアップできるように個人個人と話す時間を作っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	やりがいなど各自が向上心を持ち、働けるよう職場環境整備に努めてもらっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービス協会や、地域の連絡会に参加し、他の事業所との交流にも取り組んでいる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	軽減するための工夫を少しずつですが取り組んでもらっている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	職員会や研修を通して学び、理解し、支援を行っている。発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	/	/	◎	定期的に、高齢者虐待防止の勉強会を実施したり、外部研修に参加したりするなど、職員の理解促進に努めている。訪問調査日には、委員会の議事録等で、不適切な言動などの事例をもとに、職員間で検討したことを確認することができた。また、大きな声を出すなどの不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うなどの注意喚起をしている。必要に応じて、施設長に伝え、該当職員に確認した上で、指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員会、カンファレンス等で話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	声を掛けたり、話を聞くようにして気をつけている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	具体的な行為、緊急やむを得ない場合とは何かについて正しく理解しケアの取り組みを行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	その時々話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設側の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	要望は出ていないと思うが、話し合いはその都度行うようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	研修等で学び、理解はできている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要な時には連絡を取り相談している。今後も相談や協力依頼ができるようにしていきたい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルが作成されている。普段からどのようにしたらよいかの確認をしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救命救急講習を定期的に受け実践力を身に付けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	何かあった時には、ヒヤリハットを出し、検討し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者一人一人の状態を把握し、リスクや危険について検討、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	全職員の理解はできていないかもしれないが、苦情があれば対応方法を話し合っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	ちょっとしたことでスムーズに職員に伝え改善するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対し速やかに対応し、納得を得ながら話し合いと関係づくりを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会や家族会は開かれていないが、電話で情報提供を行っている。	◎		○	日頃から、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。面会時や電話連絡時に、職員は家族に声をかけ、意見や要望を聞いている。また、施設長は、日勤や夜勤などの業務に従事し、職員との距離も近く、意見を言いやすい風通しの良い環境が整い、職員から意見を伝えられることもできている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を行っていない。	×	公的な窓口の情報提供を行っていない。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場にも足を運んでもらい、直接聞く機会をつくってもらっている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	いつも話を聞く姿勢であり、利用者本位の支援を考え行動している。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回取り組んでいる。				自己評価は職員間で取り組み、施設長等が取りまとめて作成をしている。また、職員会等でサービスの評価結果を職員に周知するとともに、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、運営推進会議の中で、評価結果を家族や参加メンバーに報告しているが、書面開催のため文書の送付に留まっている。今後は、集合形式の運営推進会議の中で、評価結果や目標達成計画、目標達成への取り組み状況などを報告したり、感染対策が落ち着いた際には、家族や会議の参加メンバーに目標達成の取り組み状況のモニターを呼びかけて、意見をもらったりの取り組みが行われることも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告はしているが、モニターはまだできていない。	○	○	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	会議は行っていないが、取り組みの結果を確認し報告を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成している。いつでも見られるようにしている。	/	/	/	年2回、火災や昼夜などを想定した避難訓練を実施し、うち1回は、消防署職員との立ち会いのもとで訓練をしている。事業所として、隣接する就労継続支援B型事業所を一時避難場所としているが、感染対策もあり、現在は合同訓練が休止状態となっている。今後は、協力支援体制の再構築が図られるように、集合形式の運営推進会議を活用して、災害の備えを話し合ったり、事業所便り等を活用して、訓練の様子を伝えたりするなど、会議の参加メンバーから理解が得られるような取り組みが行われることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回以上訓練を行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検を行い、非常用食料、備品、物品を準備している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	コロナ禍になってからは参加はしてもらえていないが、今後も連携は図ってきたい。	○	×	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	参加できるようにしていきたい。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	取組みされていない。今後取り組めるようにしていきたい。	/	/	/	地域住民から相談が寄せられた場合には、地域包括支援センターなどの関係機関へ繋ぐ支援体制は整えているものの、感染対策が続いたこともあり、直接の相談が寄せられない状況が続いている。また、会議や研修に参加する機会は減少しているものの、他のグループホームや町行政と、連携や協力を図ることもできている。以前に、保育所等の行事に招かれ、交流を図ることができていたが、現在は相互の遠慮し合う状態が続いており、少しずつ連携の働きかけが行われていくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	何かあれば、相談支援を行えるようにしている。	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍の為、活動はできていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生、高校生、実習に来られた。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の集まりに参加はできるだけしようと、できるのは参加している。	/	/	○	